

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | 児童発達支援ほっと | | 公表日 2024年 12月 28日 | | |
|---------|----|--|----|-------------------|--|---|
| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 3 | 2 | 物や職員配置を徹底し、安全確保及び見守りの強化を行っている。 | 現状、室内の広さを確保することは難しい。物や職員配置を工夫していくしかない。 |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 4 | 1 | 保育士のみを採用し、保育的視点で子どもたちと関わるようにしている。職員も5~6名配置している。 | 職員をもう1名採用し6名体制の支援を考えている。 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 3 | 2 | 資格情報はなるべく少なめにしている。メリット・デメリットともにある。 | 社会生活では情報伝達手段に乏しく、取り入れることへの弊害が大きいと考えている。時代の流れとともに変更を検討していく。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 3 | 1 | 毎日欠かさず清掃を行っている。 | 清掃に取り組む職員によって清潔さが異なるので、清掃方法についても統一していきたい。 |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 3 | 2 | 他児から死角になるスペースが2か所あるので、有効活用している。 | 職員への周知ができていないので研修等で取り入れていく。 |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。 | 3 | 2 | 各々が各自の判断で行っている。 | 役割分担・仕組化を行い、業務の効率化を図り、子どもと関わる時間を確保したい。 |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 4 | | 保護者会時や定期的にアンケートを配布し保護者のニーズの把握を心がけている。 | 継続して行う。 |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 5 | | 職員の意見を聞く機会を設定している(面談、会議など) | パートの意見を機会が不足していたので月に1回、1対1の時間を設定している。 |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | | 5 | 実施していない | 予算の兼ね合いで取り組めていない。 |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 4 | | 月1回の社内研修、外部研修がある際は定期的に周知している。また研修費はすべて会社が負担している。 | 研修を受けた職員が受けていない職員に対して研修を行う機会を設定したいと考えている。 |
| 適切な支援の提 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 4 | | 翌日までに活動案を作成するようにしている。 | 作成時間の確保ができていますので、継続して頂きたい。 |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。 | 4 | | 保護者の要望を聞き取り、個別支援計画が作成されている。 | 保護者の意見と子どもの実態が伴っていないので、その際は事業所訪問を行い、より子ども主体の計画書の作成に努めて頂きたい。 |
| | 13 | 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 3 | | 個別支援計画の草案が作成された段階で、個別支援会議を行い、意見を拾っている。 | 継続して行う。 |
| | 14 | 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 3 | 1 | 正社員への周知は完璧だが、パート職員へは不足している。 | 自発管。パート職員で会議する時間を設定し、個別支援計画書の説明ができる環境を作る。 |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 3 | | サービス提供記録の裏面に様子などを細かく記載している。 | 継続して行う。 |
| | 16 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 3 | | | 専門用語が多い印象を受ける。保護者にもわかりやすい用語を用いて作成するように指導していきたい。 |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 3 | 1 | 曜日ごとに担当を設定し、担当した職員が活動案を作成している。 | 継続して行う。 |

| | | | | | | |
|--------------|---|--|---|---|--|--|
| 供 | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 4 | | 曜日ごとの担当がその都度、活動を変更している。 | 継続して行う。 |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。 | 4 | | 個別療育については全利用者が受けられるように時間配分及び定員を設定している。 | 今後は机を増やし、より多くのお子さまに個別療育を受けていただけるように環境を整備しようと思っている。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 2 | 2 | 説明する時間がないため、立案を確認して頂いている。 | 主活動の職員が活動のねらいや目標を伝え、共通理解ができればいいなどと思っている。 |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 3 | 1 | 業務終了後、30分の時間を確保している。 | パート職員の考えを聞く時間を作成したいと考えている。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 5 | | 毎日、活動の様子や結果をサービス提供記録に記入している。 | 記録をもとに支援内容の検証・改善をしていないので、記録をもとに実施できればと考えている。 |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 3 | | 自発管が作成した個別支援計画書の草案を全員で見直し確認している。 | モニタリング時期が遅れたり言葉が難しかったりするので、指導していく必要がある。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 24 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 3 | | 基本的に電話でのやり取りになっている。案件によっては事業所や相談支援事業所さんへ訪問している。 | |
| | 25 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 3 | | 現状ない。 | 幼稚園・保育園に通っているお子さまがいるので、幼稚園や保育園との交流は行ってみたいと思う。 |
| | 26 | 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | 5 | | 自発管及び管理者が定期的(学期ごと)に訪問し情報交換をしている。 | 自発管および管理者が自由に訪問できるように環境・仕組を構築していく必要がある。 |
| | 27 | 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | | 3 | 現状、未実施である。 | 2026年4月より就学を控えているお子さまがいる。保護者様の以降に応じて連携は行っていく必要がある。 |
| | 28 | (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。 | | | | |
| | 29 | 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。 | | | | |
| | 30 | (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。 | | | | |
| | 31 | (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。 | 1 | 2 | ネットワーク会議や研修には積極的に参加させていただいている。現状、スーパーバイズや助言等を受けることはない。 | 必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けようと考えているが、現状は検討していない。 |
| | 32 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 | 1 | 2 | 公園等でご一緒した際に交流はある。 | 今後は、こちらからお声がけをさせて頂き、交流する機会を設定したいと考えている。 |
| | 33 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 5 | | 送迎時、相談枠、保護者交流会を設定し、日ごろから子どもたちの状況について伝えあう機会を設定している。 | 必要に応じて新しい支援方法を検討していくが、現状は満足頂いている。 |
| 34 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 2 | 1 | 相談枠や保護者交流会を設定し、家族支援プログラムを設定している。 | 保護者へ認知されていない様子。おたよりやこちらからの声掛けで制度を知っていただくことから始める。 | |
| 35 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 4 | | 重複している箇所を飛ばしながら理解しやすいように工夫している。金銭についてはより丁寧にご説明させて頂いている。 | 現状のまま継続していこうと思う。 | |
| 36 | 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 4 | | 保護者への聞き取りを行い、その情報をもとに計画書を作成している。 | 子どもの意向がほとんど反映されていないので、作成時に気を付ける必要がある。 | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|---|----------------------------|--|--|
| 保護者への説明等 | 37 | 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。 | 4 | | 一つ一つ、丁寧に伝えている。保護者から好評である。 | 継続して行う。 |
| | 38 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 4 | | 保護者からご連絡がある場合に行っている。 | こちらから積極的に行うことは少ないので、こちらからも定期的にお声がけさせていただく。 |
| | 39 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 3 | | 半年に1回(6月、12月)に開催している。子どもの参加(兄弟含む)も可。参加については任意だが、全員にご案内している。 | 好評いただいているので継続して行う予定である。 |
| | 40 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 4 | | 原則迅速に対応している。案件によっては時間が解決までに数日を要することもある。 | 継続して行う。 |
| | 41 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 4 | | 毎月、ほっとだよりを発行している。連絡手段については公式LINEを使用している。 | SNS(インスタグラム)にも力を入れようと思っている。 |
| | 42 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 5 | | 個人情報については指定された場所で保管するようにしている。 | 2024年12月に個人情報保護法に関する研修を行った。継続して行う。 |
| | 43 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 5 | | 社会生活で情報伝達(標識等)が少ないため、現代に沿う形で環境を設定している。 | 社会の環境が整えば、こちらからも積極的に現場の環境を設定していこうと思っている。 |
| | 44 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 3 | | 現状行っていない。 | 2025年度の夏まつりは地域住民の参加を促していこうと考えている。(保育園等に開催のパンフレットを配布) |
| 非常時等の対応 | 45 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 5 | | マニュアルを作成し、年に1度の研修及び入社時研修を行っている。 | 避難訓練以外の訓練は行っていないので研修時にロープレを採用し、緊急時でも落ち着いて対応できるようにしていく。 |
| | 46 | 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 2 | 1 | BCPを策定し訓練等を行っている。 | 継続して行う。 |
| | 47 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 5 | | 契約時にお伺いしている。てんかん発作等がある場合は事前に原因やその時の様子をお伺いし、職員と共有したうえで利用開始日を設定している。 | 継続して行う。 |
| | 48 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 5 | | 契約時にお伺いしている。アレルギー児に関してはアレルギー除去食を用いており、提供物に関しては保護者に確認して頂いている。 | 継続して行う。 |
| | 49 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 5 | | 安全管理研修を実施している。 | 継続して行う。危険な場所やヒヤリハットを定期的に共有しながら安全確認を行っている。 |
| | 50 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 3 | | マニュアルは作成しているが、保護者への周知及び実施が不十分である。 | 緊急時を想定した訓練を事前にお伝えし、互いに協力関係を築きながら実施していく。 |
| | 51 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 5 | | ヒヤリハットが発生した場合はすぐに報告書を作成する体制を整えている。また、その日に会議を開いている。 | 継続して行う。 |
| | 52 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 5 | | 虐待防止研修を実施し、適切なかかわり方について議論している。また、会社の支援方針についても都度、お話ししている。 | 継続して行う。 |
| 53 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | 2 | 2 | 3要件について伝えしたが、うまく伝わっていなかった。 | 研修内容を見直し、職員にわかりやすい言葉で伝え、虐待が起こらない環境を作っていく。 | |